

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370600639		
法人名	医療法人 誠真会		
事業所名	グループホームおかもと Aユニット「故郷」		
所在地	熊本県玉名市亀甲251-5		
自己評価作成日	令和4年12月28日	評価結果市町村受理日	令和5年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がホームでの生活を自宅と同じ位、又それ以上に安心して過ごしていただけるように、日常生活の支援を行っています。利用者様と職員が共に笑顔で過ごし、ゆつくりと安らげ、安心した生活が維持できる。地域に密着した「家」作りを目指しています。コロナ禍ではありますが、他者への接触や外出の規制が続く中、年間行事など全てを中止にしたりするのではなく、感染状況を見極め、場所、時間、人数、方法などを工夫し出来る限り利用者様に楽しんで頂けるよう実施しています。また、介護職員へもスキルアップの為、要望に応じて研修や勉強会への参加も参加を支援しています。利用者様への病気や怪我に対しても、併設の病院より24時間体制で医師や看護師の対応が可能であり、利用者様、御家族様にも安心感を得られており、また災害時の避難場所として、地域市民の拠り所となる環境整備が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長期化する感染症の対策に追われた1年間ではあったが、その中で時期や人の混み具合をみて入居者が地域へ出る機会を支援している。ホームは母体医療機関とともに昔からの商店街の一角にあり、地域住民からの避難訓練時の協力や、商店から届く新鮮な食材を使った手作り食を提供し、相互に支え合いながら地域の一人としての暮らしを続けている。コロナ禍でなければ運営推進会議も入居者の中で行い、普段の生活ぶりを実際に見てもらうことで会議内容とリンクし、参加者から様々な意見が聞かれており、職員も直接開催のスタートを心待ちにしている。職員の人材確保や定着の安定、資格取得の後押しなど職員育成に力を入れており、検討事項は全職員で話し合う体制や、年間研修計画は職員自身が考えた研修内容及び必要な資料の選択や事前準備など、自らが行うことで自信や質の向上に繋げている。コロナ終息後の展開が大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全体で確認し、地域に密着しゆとりと笑顔のこぼれるホーム作り「家」を目指すことを掲げケアの統一を図って理念を大切にしている。また、毎日の申し送りや定例会の時に、理念の唱和を行い、理念の意義を再確認してもらうよう努めている。	母体医療機関とともに地域に根ざし、入居者一人ひとりの安心と尊厳のある生活を守るとした理念を掲げている。振り返りの機会には内容を見直し、新年度も同理念をホームの指針として継続する事を決めている。職員意見を尊重し、新たな入職者にはホームのこれまでの歩みを伝えながら、入居者とゆっくり関わろうよう導いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、イベント参加の声掛けが出来ていない。感染状況を見極め、感染予防を行いながら近くの学校の職場体験の受け入れを行っている。	地域行事が中止となる中、入居者が人々と交流する機会は少ないが、状況を見て馴染みの神社への初詣や公園、河川敷での花見学に出かけ、地域との関わりが希薄にならないように心がけている。中断していた実習生の受け入れが一か所のみではあるが再開できており、入居者が若者とのやり取りを楽しまれたようである。ホーム自体が昔からの商店街の一角にあり、食材購入を通じて地元のスーパーや専門店との付き合いが継続されている。	ホームの消防訓練にも地域から参加協力が得られていたが、参加者の高齢化を案じ、運営推進会議や行政の指導を仰ぎながら検討したいとしている。地域住民との関係性と協力体制の継続が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の職場体験で体験や会話を通じて感じた事学んだ事を今後活かしてもらえるように支援している。推進会議資料にも認知症についてや福祉用具等を現状に合わせた報告や周知も行っている。又、入居見学や受付時に当施設の利用有無に関わらず相談やアドバイスを出来る限り行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により書面審議開催となっている。報告を行い、参加者全員へ意見書の記入を依頼し、質問や問題があれば適宜解決に向けての対応を行っている。また、職員へも周知する事で情報共有が出来ている。	運営推進会議は現在も書面審議による開催とし、ホームの現状を報告書にて送付している。報告書には入居者の現状やヒヤリハット、事故報告、研修会の取組状況とともに前回の報告書に対する意見や質問に応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問い合わせや報告事項などを行い、サービスや対応方法等のアドバイスや協力してもらえる体制構築している。	運営推進会議が関係者による直接開催として行われていた際には、入居者もホームの一員として会議に参加し、行政担当者や地域代表者との交流が出来ており、ホームではコロナ感染症の終息に期待を寄せている。行政には相談事や質問に応じてもらいながら良好な関係を築き、認定調査は事務所で対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は施錠の弊害を良く理解し、外出の傾向や心情を察知し、その場に応じた適切な対応や、さりげない声掛けや傾聴、安全面に配慮して自由な暮らしを支えている。又状況に応じて戸外散歩をや会話をし精神の安定を促している。また定期的に「身体拘束及び虐待等廃止検討会議」も開催し、内容は不参加の職員にも周知を行っており、日々のケアでも職員同士が声を掛け合い、防止に努めている。又、やむ負えなく行う場合においても、身体拘束の三原則を理解厳守し、それに基づき、御家族様に報告説明と承諾書の提出を義務づけている。	身体拘束適正化委員会や毎月の定例会で入居者の現状や今後予測される心身の状態などを話し合い、理念である安心と尊厳のある暮らしに焦点を当て、共有を図っている。今年度、骨折が完治しておらず、夜間帯が心配される入居者に止むを得ないと判断し、担当医や家族とのカンファレンスで期間を決めてベッド柵での転倒防止策が行われている。支援状況を家族に説明し、運営推進会議でも報告している。	職員は虐待及び身体拘束についてチェックリストにより自己を振り返るようにしている。ただチェック表の項目については設問内容を今一度見直すなど検討の余地はあると思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な「身体拘束及び虐待等廃止検討会議」を行い、現場の現状把握や対処法等を話し合い、日々のケアに活かしている。また、毎月の定例会の中でも勉強会やアンケートを用い、職員に理解を得られている。職員間でも情報を共有し、日々のケアの中や、日常の会話の中でも発見次第、お互い注意を促すよう教育している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修機会があれば職員への参加周知を行っている。又、何に対して権利を有するのかも考えながら日々のケアを行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様に合わせ、内容を現状や事例も含め解りやすく簡潔に説明行っている。後日でも不明点等問われた時は、追加説明も行なっている。重要事項説明書・運営規定も、玄関にて閲覧できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言葉や態度から思いを察知し、ケアに活かしている。また推進会議や家族会でのアンケート、訪問時などでも問いかけ、何でも言える雰囲気作りにも留意し、ミーティングやノート活用で反映している。玄関にも意見箱を匿名で記入出来るよう設置している。	家族へは入居者の現状を伝えながら、意見や要望を引き出すようにしている。家族アンケートの結果を集計して運営推進会議で紹介し、透明性のあるホーム運営に努めている。コロナ禍により情報発信の機会が少ないことから資料を活用し支援への工夫を紹介している。入居者の要望は日々の関わりの中から確認し、支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は日頃より職員の間に入り、意見、提案を聞き対応し、状況や必要に応じてサービスの反映を行っている。	職員は普段から意見や要望を出しており、必要な内容については月の会議で全員で検討するようにしている。管理者や計画作成担当者も日々のケアに入り、職員の状況を理解しながら意見を受け止め、希望休や有休がとりやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向け支援をし、職員の家庭状況に合わせた労働時間の配慮にも気を配り安定した活かせる業務環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、オンラインの外部研修にも参加したり、職員のレベルに応じた研修を受講出来るよう促している。新人研修は一定期間マンツーマン体制をとり指導実地している。又、問題がある職員に対しては個人面談も行い、より良いケアを行う様に指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍になり交流できていない。交流出来るようになれば機会を増やしていきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談以前に既往歴や生活歴等を把握しておき面談時に出来るだけ理解対応出来る体制をとれるように準備しておく。また面談時には本人の今の気持ちや意見を聞き入れ、受け入れの関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が求めているものを理解し、どのような対応が出来るかを事前に話し合いをしている。傾聴し状況等を把握し、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時や面接時などでの、会話の中で気付いた事や、必要な事に相談を持ちかけている。又、早急な対応の相談者には柔軟な対応を行っている。改善に向けた支援の提案と信頼関係を築きながらサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人が出来ることを見極め、手伝いや協働を求め共同生活への意欲を高めつつ感謝の気持ちも伝え施設内での役割や立場を確立していただけるように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子や職員の思いを伝達することにより、ご家族様と職員の思いが重なり協力関係が築けるよう努めている。又、認知症状について説明する事で、家族様にも理解を深めてもらえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいた友人や知人の方を忘れられていても、職員が間に入り再来訪してもらえるように関係作りをしている。又、認知症が進行している方には来所時の面会簿を保管、把握し人物の紹介等行い、関係が途絶えない様になっている。	現在面会は窓越しとしており、事前に家族の要望を聞き玄関先でひと時を過ごしてもらうようにしている。職員との会話は入居者に馴染みの玉名弁が聞かれ、昔懐かしい料理の話で盛り上がり、カレンダーや干支の作品作りなどを通して入居者の自信につながるようになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に話を傾聴、相談を行い、楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りになる様に働き掛けをしている。又、時には職員が間に入り関係作りにも貢献している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ転所される場合、情報提供等交換を行い、関係性が途絶えないよう努めている。退所後、ご家族来訪時にも状況の確認を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けし希望、意向の把握に努め、ご家族様や関係者からも情報を得てケアにあたり、又ご本人本位になる様に支援している。	入居時のアセスメントやその後の入居者との関わりから思いを収集し、プランにつなぐようにしている。家族には面会時や電話で意向を聞き取り、入居者の思いを代弁してもらうようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との語らいの中、「開かれた質問」を用い、会話の中で把握に努めている。又、ご家族様や知人の来所時にも新しい情報等がないか聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを理解し、行動、動作を感じ現状の全体像の把握に努めている。モニタリングした心身状態も申し送りや専用ノートを利用し職員で共有し、アセスメントも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の気持ちや意見を元に、日々の関わりの中での職員の観察、気づき、思い等の意見・アイデアも反映させ、現状に応じた介護計画が作成されている。	入居者・家族の意向を優先してプランを作成している。入居間もない方には暫定プランとし、その後の入居者の心身の状況を細かくアセスメントして現状に沿った内容をプランニングしている。居室やトイレ掃除を自らされることが日課となるなど「じっとしているのが嫌なので何かさせて欲しい！」との本人の思いに無理のない程度でやりたいこと、できる事を見極め支援するなど、初めてのホーム生活にやりがいや楽しみ事を見つけてもらう内容としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックス、担当利用者様のレポート、申し送りノート等を用い、状況把握とケア記録、情報を共有しながら介護計画の実践、見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	第一にご本人様や御家族様の気持ち、要望に添えるよう考え臨機応変に対応している。又状況に応じて、外出や病院送迎支援にも柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して暮らせる様、各機関と協力しながら支援している。定期的に来られる訪問販売のパン屋等でもおやつにと利用者様自ら商品を選んでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や隣接の母体医院等、ご希望の医療機関となっている。専門的な治療を要する際は主治医より紹介状を頂き専門医受診支援も行っている。	本人・家族の希望を優先しているが、全員が隣接する母体医療機関をかかりつけ医とし、3か月に1度ほどの間隔で訪問診療が行われている。もともとが母体医院に通院されていた方も多く、医師への信頼は厚く、24時間対応が可能であることも家族や職員の安心となっている。専門医の受診は基本的に家族に依頼しているが、困難な場合や緊急時はホームで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の健康管理や状況変化に応じた支援を行なっている。相談助言と対応も行なっている。医療機関との連携の支援も行っている。緊急時や急変時は母体の医院と24時間体制で対応できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、ご本人様の支援方法に関する情報提供をし、かかりつけ医やご家族様とも相談しながらケアカンファレンスにも出席し状態確認を行い、対応可能な状態での早期退院になるアプローチをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも重度化や看取りについての指針の説明を行っている。ご本人様の気持ちを大切に、ご家族様と話し合い、終末期に不安を軽減出来るよう努めている。また事前アンケートを取り情報を得、ご希望があれば看取りをホームで迎え、終末期を支援する意向である。適宜考えや意向の変更も行っている。	看取りに関する指針を作成し、入居時に延命救急時に関するアンケートと併せ説明や意向を確認している。家族の思いは変化するものであり、変更も可能であることを申し添え、実際対応が必要になった場合、再度アンケートを取っている。状態が悪化すると、母体医院や特養へも移行を希望されている。終末期支援に関するホーム内研修を実施し、法人医師より看取りガイドラインについて資料も準備され、会議などで共有されている。	入居者は職員との関わりから「最期までみてね！」と話される入居者もおられるようである。今後も入居者の思いに応え、ホームに出来得る支援に努めていかれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接医院への応援を依頼している。又、AEDや人体模型を使用した救命救急(心配蘇生法)の研修参加を職員に促し、研修後は他職員への指導を自ら行ってもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し定期的に消防署の協力を得て、避難誘導訓練及び消火器の取り扱い方法等、訓練し新人職員を中心に全職員が出来る様に実施している。地域住民参加の協力はコロナ禍なので出来ていない。また非常用食料、水も常備している。	今年度は新人職員を中心にした訓練や法人医院主体、机上訓練などを実施している。職員は慌ててしまう事などが今後も課題の一つとしている。非常用食料はリストをもとに両ユニットで管理し、各部屋にヘルメットや蛍光タスキが用意されている。地域住民の参加による訓練は、コロナ禍にあり行えていない。	ホームは河川氾濫などの心配はない地域であるが、今後も火災、自然災害に関する訓練の実施に期待したい。また、コロナの状況を見ながら運営推進会議を活用した訓練の実施も良いと思われる。月2回実施している安全チェックの継続やチェック内容の見直しにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、ご本人様の気持を大切にし、さりげないケアに心掛け、自己決定し易い言葉掛けを行いプライバシーの確保や尊厳を守る様支援している。	職員は日々の関わりの中から個々に応じた支援の方法を共有し、人生の先輩として接するようにしている。トイレ誘導時の声掛けや排泄時の支援などは特にプライバシーに配慮している。身だしなみやおしゃれもその方の要望や必要に応じたサポートにより、衣服の選択などを行っている。また、化粧品や保湿剤、衣類など家族の協力も得ながら不足などないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から提案はせず、自己決定を促し言い表せない方には、職員側から、思い、希望、関心、嗜好を見極め、選択肢を提案し自分で決める場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮し又日々の暮らしの中で、その人それぞれの個性を掴み、本人のペースに応じた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本はご本人様の意向で決定、職員は見守り、支援が必要時、手伝いをしているが自己決定困難な方は職員と一緒に考え支援している。その人らしさを保てるよう手伝いを行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく全員一緒に食事が出来る様にし、個々に合った食べ方の工夫や食材の大きさ等にも工夫している。同じテーブルを囲み、楽しく食事が出来る雰囲気作りを大切にしている。旬の食材をメニューに取り入れ食してもらったり、希望に沿うよう作り、一緒に準備、後片付けを行い家庭的な雰囲気作りをしている。又、時代に応じたファストフード等の食事も時折取り入れている。	職員による献立作成や調理が行われており、入居者からは毎回「美味しかった～！」の言葉が聞かれるようである。食材の米や鮮魚、精肉は近隣の専門店から配達されている。1階、2階がそれぞれの家として献立も別に作成しており、朝食にパンを取り入れるユニットや調理方法などそれぞれが工夫している。入居者の食へ関わりとして、団子汁用の団子まるめ、ランチョンマット敷き、食器拭きなどを行われている。	入居者の希望や季節を取り入れながら職員による日々の調理は、楽しみの一つになっており、変わらぬ取組が継続されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な確保の時間を設定し、全員が談話の場としても活用出来る様工夫している。又、チェック表に記録し情報を共有、バランスの摂れた食事と量、飲み水による脱水防止にも努め支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けや、就寝前の義歯の洗浄に口腔ケアの重要性を理解し、個人別のチェック表を作り、磨き忘れなどがないよう支援している。口腔内の状態に応じ、往診歯科への協力行ってもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の要する利用者様にはモニタリングを行い、排泄サインやタイミングを把握し、トイレへの声掛けやケアを行い、トイレでの排泄を支援している。また残存機能を活かしたケアやトイレの場所把握の工夫を行っている。	日中はトイレでの排泄を基本としており、数名の方が布パンツで過ごされているが、殆どの方がパットを併用しながらリハビリパンツを使用されている。ポータブルトイレを使用される場合は、使いやすい配置などを個々に応じて検討し、居室での使用という点から特に洗浄、消毒により清潔に管理している。排泄用品については家族が購入し持参されることもあり、参考になるよう性能などについても説明を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、食材の工夫、乳製品の取り入れ、身体を動かす(体操・レク・戸外散歩)機会を設け、自然排便への取組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に応じた入浴を行い満足感を得られている。入浴前には声掛けを行い、個々に合わせた温度、に調整するなどの対応を行っている。拒否などがある方に対しては、職員間で対応方法を共有し、気分よく入浴して頂けるよう支援している。行事に合わせた菖蒲湯やゆず湯も楽しんでいただける様取り組んでいる。	週2~3回午後を中心に入浴支援を行っている。個々に応じた声掛けや好みの湯温などに配慮し、満足感を持ってもらえるようにしており、拒否がある場合は、対応方法を検討している。シャンプー類はホームで準備しているが、好みなどがあれば、持ち込まれてよいことを伝えている。菖蒲や柚子湯は季節の行事として、継続して支援しており菖蒲を頭に巻くなど昔ながらの慣習も取り入れている。	端午の節句で菖蒲を頭に巻くことや柚子湯の由来など職員間で共有して取り入れていきたいとしている。入居者の経験や知恵袋などを引き出しながら、充実されることを期待したい。また、湯処であり入居者が楽しめる足湯を探し出かけたいたいとしている。実現に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	考慮して休憩を取り入れる様支援もしており、就寝前、温かな飲み物を提供、飲みながらゆっくり、会話等で安眠の支援をしている。消灯時間になり居室に戻られてからも、個々のペースで入床準備やテレビ視聴されているので、その様な時間も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が基本情報や、服薬の内容把握が出来る様にし、お薬カレンダーを用い、与薬時には職員で間違いがないようダブルチェックも行っている。服薬服用確認と変更時に状態変化にも気をつけ、医療機関との連携も図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除、洗濯物たたみ、食器拭き等、得意分野で一人一人の力を発揮してもらえよう依頼し、感謝の言葉を伝えるようにしている。また趣味や習慣を継続出来るように向上心を保てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍になり、ご家族様とすら自由な外出は出来ていない。時折行事等でドライブをしながら気分転換を図っている。	以前のような外出は困難であるが、普段はリビングでの日光浴や状況を見ながら季節の花見(桜・ふじ・バラ・菖蒲など)に出かけている。これらの取組は広報誌の中で紹介されている。家族も帰省や外食など一緒に外出できることを楽しみにされており、感染症の終息が待たれる。管理者は今後も外出に代わる楽しみ事も工夫しながら、終息を見据えた外出企画も検討していきたいとしている。	ビデオやユーチューブ、旅行雑誌などを活用しながら、国内の観光などを楽しみごとも良いと思われる。職員のアイデアや工夫に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出の機会が無くなり支援が出来ていない。個人的なお金を持つことは色々な事象を説明した上で自由にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	迷惑にならないような時間以外は希望に応じられる様に電話や手紙のやりとりも自由に出来る様支援している。手紙のやり取りの仲介も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に利用者様手作りの物や、飾り付けをして季節感を意識的に取り入れる工夫や、玄関に季節ごとの花を生けている。廊下や居室に温湿度計も設置しており常に快適な室温を把握出来る様にしている。	強固な造りの建物の1階と2階に配置されたグループホームは、双方の管理者が連携を図りながら、入居者が居心地よく過ごせる環境に努めている。季節の飾りつけも職員が工夫しながら、入居者と一緒に行っている。共用空間は掃除や換気、臭気にも十分注意を払っており、特にモップがけは、日課として手伝う方もおられる。リビングや食堂の席は自由としているが、各自定位置がありトラブルにならないよう相性なども考慮してサポートを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアソファも向い合せにて設置し、孤独な気持ちにならないよう配慮している。個々の性格や身体状況に合わせた場所も提供している。職員が利用者様の間に入り、会話や交友関係の懸け橋になって頂けるよう気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込み、居心地良く過ごせる説明をしている。必要と思われる物品も本人とご家族様に提案し本人の好みの物をご家族様に持参して頂くようにしている。また新たな楽しみを引き出せる様な工夫も行っている。	居室への持ち込みは危険性(発火・刃物など)の無いものであれば可能であることや、仏壇、家族の写真など例をあげながら説明している。テレビを持ち込まれている方も多く、消灯後(10時~12時)もしばらく見られる方もおられ、職員は無理に視聴を止めることなく見守りながら就寝を確認している。現在、家族の訪問を控えており、衣類の管理は職員が行い、不足の品などがあれば、家族へ連絡を行っている。居室の掃除は職員の他、自分の役割として一緒に手伝われる方もおられ、自信につながっている。	衣類の整頓や入居者の居室内での様子など家族にとって気になる点と思われる、写真なども活用しながら伝えられると安心につながると思われ取組に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの印をドアに貼ったり居室入口のドアにそれぞれ表札を貼り、迷われない様な工夫をしている。廊下にも不必要な物は置かないようにし、危険防止にも配慮している。自室にも今まで事故等を考慮し、手すりを取り付けたり、職員でアイデアを出し合い工夫を施すようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370600639		
法人名	医療法人 誠真会		
事業所名	グループホーム おかもと Bユニット松		
所在地	熊本県玉名市亀甲251-5		
自己評価作成日	令和5年 1月 5日	評価結果市町村受理日	令和5年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者皆様がホームでの生活を自宅と同じ位、又それ以上に安心して過ごして頂けるように、日常生活の支援を行っています。ご利用者と職員が共に笑顔で過ごし、ゆっくりと和らげ、安心した生活が維持できる、地域に密着した「家」作りを目指しています。急変時やけが等に対しては、併設する医院で24時間体制での医療を受ける事が出来ます。建物は3階建てであり、入院施設も有ります。災害時の避難場所として地域市民の拠り所となる環境整備が整っています。しかし、この度のコロナの影響で生活が一変してしまいました。私たちは今まで培ってきた社会資源を有効に活用できるように考えていきます。また途上ではありますが、利用者の方々、取り巻く方々、等が安心して生活していけますように更なる工夫をして参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人を大切に安心して尊厳の有る生活を守り、地域に密着し、入居者様にゆとりと笑顔がこぼれるホームを目指すことを理念として、ミーティング、定例会時に唱和しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム主催のドライブ位はは状況に応じて行っています。施設内部での餅つき、さんま焼き、敬老の日の大々的なイベント、などは殆どコロナ感染症の拡大に伴い、開催出来ておりません。地域の方々や、近隣の学校の方々との職場体験等も開催出来ていない状況です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献の一つとして、地域の専門学校や中学生及び高校生の職場体験の受け入れを行っていましたが、コロナ禍のなかで残念ですが行えない状況です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催で、近況報告や意見要望等を聞いて質疑応答を行っています。改善すべき事項を提示し、次回の推進会議で報告してサービスの向上に努めています。行政、包括支援センター、区長、老人会長、ご家族、利用者の方々に参加頂いています。しかしながらコロナ禍の為、書面にて会議内容を作成して皆様に郵送で報告、回答を行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や、認定調査の機会に、市町村担当者の皆さんへご利用者の生活の様子を伝えて、連携を図っています。しかしながらコロナ禍の為、現在は書面にて報告しています。制度変更や運営基準等の不明箇所はその都度確認を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の行動や心情を察して、適切な対応を心がけています。毎月の定例会、年2回の内部研修を行っています。「身体拘束廃止に関する指針」を作成して、年に4回の検討会議を行って周知しています。どうしてもやむを得ない事情で何らかの拘束を行う場合は、ご家族と協議の上、承諾書を提出しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束及び虐待防止検討会議」を年に4回行って、委員メンバーで状況や対処方法などを話し合い、日々のケアに活かしています。毎月の定例会の中でも勉強会を行い、情報の周知徹底を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に4回の検討会を利用して理解を深め、現場のケアに活かすように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族、利用者の方と契約書の重要事項の説明を行っています。不明点を解決出来るように対応しています。重要事項説明書、運営規定は玄関に開示して観覧出来るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からの不安、意見、苦情等は傾聴します。その言葉から想いを察して改善点を話し合います。ご家族の意見や要望は、面会時や年に一度の家族会で対応します。家族会はコロナ禍の為に文書で行っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や不満の訴えがあった場合は、状況によっては代表者と相談して改善するように努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の資格取得に向け支援を行っています。定期健診も行って、心身の健全化に努めています。管理者にも指導教育を行って、職員の適切な勤務バランスが行えるように努めています。代表者には職員の意見は適切に伝えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修等は、積極的に受講を促しています。定例会でのレポートで情報を共有しています。新人研修はマンツーマン指導を行い、進捗状況に併せて期間を決めています。悩み、相談事は個別に対応しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二か月に一度、玉名郡支部会や連絡会での研修事例検討を通じ、意見や経験をケアに生かしています。しかしコロナ禍の為に開催出来ていない状況です。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握し、ご本人・ご家族の不安や問題点をご本人の立場で受け止められるような信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでご家族にどのような苦労があり、どのようなサービスを利用されてきたか、現在に至るまでの経緯について話し合い、相談相手として信頼して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、ご本人やご家族の思いや状況などを確認して、現在必要とされている支援について、他事業所サービスも含め、説明・紹介できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である入居者様を敬う気持ちを全職員が持っています。生活の知恵や文化、作法等について教わる機会もあります。お手伝い等を通じて生活に積極的に参加される気持ちを大事にします。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の思いや困りごとなどの、話し合いをする機会を日常的に持つようにして、悩みや問題を共有し共に協力しながら、ご本人を支える事が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会は積極的に受け入れていますが、コロナ禍の為に玄関でガラス越しに行っています。理解が難しい方は手紙、写真、通訳等になって対応しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人に傾聴して相談にのります。皆様の関係が悪くならない様に調整役になります。食卓の配置も考えて、楽しく過ごして頂けるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ転所される場合に、アセスメント、ケアプラン、や支援状況等を提供し情報交換を行っています。サービス終了後は必要に応じて連絡を摂っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントをはじめ、日々の生活の中で寄り添い、関わることで相手の思いを理解し、御家族と共にご本人の希望に添った暮らし方を検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントをはじめ、日々の関わりの中でそれとなく情報収集ができるように関係づくりに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用一人ひとりの生活のリズムを理解するとともに、日々変化する状況を記載し、全体的な状態について把握できる様努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様とご家族の意見をもとに職員の意見を反映させて介護計画を作成し、又、作成後はご家族に説明し同意を得ています。定期的にモニタリングを行い、介護の可能性について議論し計画の改善に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、身体状況チェック表で個人の状況を時間を追って記載しています。又、日々の暮らしやご本人の言葉、職員の気づきや対処したことを記録し、朝夕の申し送り時にカンファレンスを行い、計画の見直しにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族の状況やご本人の状態に応じて必要な受診がある場合は協力医療機関の受診を行っています。受診の際の同行は基本的にはご家族にお願いしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人と地域との様々な接点を見いだせるように、地区の区長様、老人会長、民生委員、行政機関と連携しています。しかしながらコロナ禍の為、推進会議の書面にて対応しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する岡本外科が主にかかりつけ医となり、24時間体制で対応できています。他のかかりつけ医へは主にご家族に送迎をお願いしています。又、突発的な事で他の医療機関の受診が必要な場合は、主治医の紹介を通じて受診治療が出来るように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接医院と連携を図り、入居者様の健康管理に努め、異常時には速やかに適切な受診を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはかかりつけ医、ご家族と情報交換を頻繁に行い、安心して治療が出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・御家族・かかりつけ医・職員を交え、終末期の対応方針を話し合い、全員で共有し、又、変化があることにご本人・ご家族の意向を確認し支援に努めています。延命治療についてはご家族と相談、説明、アンケート調査を行い、指針としています。コロナ禍の為外部の研修には参加出来ていません。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	速やかに隣接の医院へ連絡し、適切な処置が行われています。救急時の心肺蘇生法の研修にも職員は参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、定期的に消防署の協力を得て、年2回、火災避難誘導訓練及び消火器の取り扱い方法等を訓練している。全職員が災害時に対応できるように努め、訓練には近隣住民の協力と参加も得ている。訓練を記録に残し、職員が常時閲覧できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴時の声かけ、自室へのノック、等は配慮しています。トイレや入浴時は極力ドアを閉めてプライバシーの保護に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望に合わせた対応を心がけています。出来るだけ希望に沿うように考えていきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調や気持ちを配慮して、出来るだけ希望に添えるように対応しています。食事時間、起床、入床時間なども皆様のペースに合わせて行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の体調や気持ちを配慮して、出来るだけ希望に添えるように対応しています。食事時間、起床、入床時間なども皆様のペースに合わせるように行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは出来るだけご希望に沿う様に、努めています。お一人ずつの体調に合わせて、一緒に楽しく食事出来るように努めています。季節に応じたメニューも取り入れています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況チェック表を活用して、毎食の摂取状態を記録、確認出来るようにしています。困った時はかかりつけ医と連携しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行っています。必要な方は介助を行っています。義歯の方は夜間は取り外して洗浄しています。治療が必要な方は、ご家族と相談の上歯科往診を依頼しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人一人に合った対応を行っています。職員は皆情報を共有して適切な対応が出来るようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ献立を工夫する様に努めています。可能な方は軽体操、リハビリ、自力での歩行に務めて頂きます。状態によっては医師と相談の上対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて入浴を行っています。気持ちよく、その方に合わせた方法で行います。拒否がある方は皆で対応を考えて行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調に合わせて、休まれたり部屋の環境を整えたりして対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬情報をファイルして内容の把握に努めています。1週間分のお薬カレンダーを用いて、セット、与薬時は職員間でダブルチェックを行って、誤薬予防に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の出来る範囲で洗濯物たたみ、食器拭き、等の家事を中心としたお手伝いをお願いしています。好きなコーヒー、ゲーム、等もお声かけしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩、買い物、外出、行事ごと等は適宜行っていました。しかしコロナ禍の為ほとんど行えていません。施設内でイベントを考えています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して、基本的には施設内事務所で保管しています。各自の金銭出納帳に領収書を添付して、毎月写しをお渡ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族には屋間の電話会話は積極的に進めています。お手紙も喜ばれています。楽しまれるように努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内での共用の場所には危険な不要な物は置かない様に努めています。トイレ、浴室等は清潔を保つように心がけています。ご自分のお部屋は整理して、気持ちよく過ごして頂けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場であるフロアでは、適切な温度管理、換気、音の管理、清潔に努めます。一人が良かったり、気の合う方同士で話ができる様に雰囲気工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と話し合っ、好きな物、使い慣れた物、想いで物、等は置かれています。限られた広さの為に、季節ごとに入れ替える事もあります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の分かりにくい所には案内板を貼って迷はないように努めています。動線には不必要な物は置かない様にして安全を心がけます。ソファからの移動時、車いすでの移動時は介護の基本に立って、安全に努めます。		